

---

# **金色とオレンジ色の混ざった空の下で**

灰色兎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

金色とオレンジ色の混ざった空の下で

### 【著者名】

N4873C

### 【作者名】

灰色兎

### 【あらすじ】

放課後の帰り道、男子高校生と女子高校生の他愛のない会話。

「なあ、どうしてお前はそう笑つていられるんだ？」

学生鞄を肩に背負つた男子高校生。

その隣に並んで歩いているのは、いかにも大人しそうな女子高校生。

「笑う？私笑つてた？」

男子高校生の前を歩き、覗き込むようにして女子高校生は訊く。

「ほら、今も笑つてる。顔に出でない時も笑つてる。いつも笑つてる」

男子高校生は目線を少しそらして言つ。

女子高校生はその答えを聞き、不思議そうにまた訊く。

「私は別に笑つてゐつもりはないよ？なんで慶えちゃんにはそう見えるのかな？」

男子高校生は口を閉じ、やや顔をあげながら早足で歩き続け、「やつ見えちゃうんだよ、俺には」

そう答えた。

女子高校生は、慌てて男子高校生の後に続く。

「なんでかな？なんでかな？気になるな？」

男子高校生は、女子高校生とは口を合わせず、ずんずん早足で進む。

女子高校生は楽しそうに何度も問う。

「なんでかな？なんでかな？」

「つく…、そんなに知りたいか？」

男子高校生はくるりと女子高校生の方に向き直り、少し顔を赤らめて言つ。

「聞きたいな、慶えちゃんがそう見える理由聞きたいな？」

女子高校生は興味津々に口を輝かせていく。

男子高校生は口をぎゅつとつぐんでから、照れくさうに言つた。

「…いつも見てるから」

女子高校生はその言葉をしっかりと聞き、男子高校生の顔を覗き込

んで、

「そつか！」

と、にっこり笑つた。

男子高校生は、その女子高校生の返事に軽く溜め息をつく。

「…お前…『そつか！』つて……。まあいいか…」

女子高校生の笑顔につられて、男子高校生も曖昧に微笑む。

「じゃあお礼に今度は私が慶えちゃんをいつも見ててあげる…」

突然そんなことを言い出した女子高校生。

男子高校生は「えっ？」と、思いもしなかつた返答に驚いた。

女子高校生は、男子高校生の顔を覗き込んだまま、にぱーと笑う。

「つつづ…」

急に女子高校生にぐるりと背を向け、足早に進み出す。

「ありや？」と、女子高校生も後につく。

「どうしてそんなに早く歩くのかな？かな？」

「つつづ…！」

必死に後を追う女子高校生。

男子高校生は、必死に赤くなつた顔を見られまいと早足で進んだ。

「ねえ、なんでかな？なんでかな？慶えちゃんなんでかな？」

夕日が西に沈みかけ、金色とオレンジ色が混ざつた空の下で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4873c/>

金色とオレンジ色の混ざった空の下で

2010年10月14日20時35分発行